

天理市埋蔵文化財センターだより

Vol.9

特集 『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』



内山永久寺

平成20年度 発掘調査速報展

◎冬の文化財展 『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』 平成20年度発掘調査速報展

2009年12月9日(水)
~26日(土)

天理市文化センター
1階展示ホールにて

※14日(月)、21日(月)、23日(水)は休館

◎文化財講演会と展示解説
12月19日(土)午後2時から
1階展示ホールにて

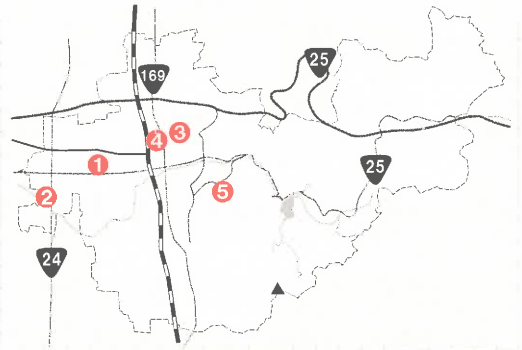
天理市教育委員会文化財課では、これまでに市内の遺跡における多くの発掘調査を実施しています。そのなかには開発に伴う調査に限らず、遺跡の範囲確認や史跡整備に伴う学術調査も実施していますが、これらの調査成果については市民の皆様目の触れる機会が少なく、その内容についても知られることがあまりなかったかと思えます。

そのため、平成18年度より夏と冬の年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」では、平成20年度に市内の各地で実施した発掘調査の成果についてご紹介いたします。

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回の「センターだより」紙面では、平成20(2008)年度におこなった5件の発掘調査の成果をご紹介します。発掘調査速報展示とあわせてご覧ください。

- ① 前栽遺跡 ② 嘉幡遺跡 ③ 袋塚古墳
- ④ 山の辺第1工区 土地区画整理事業に伴う調査
- ⑤ 内山永久寺跡



前栽遺跡 第7次

せんざいいせき

1



共同住宅建設に伴い、遺跡の南西端で調査をおこないました。調査では、弥生時代中期後半～後期の川や土坑(何らかの目的で掘られた穴)、室町～戦国時代の井戸や土坑などが見つかりました。また、これらより下の地層からは、弥生時代前期の土器も出土しています。



全景(北から)



調査風景



弥生時代前期の土器

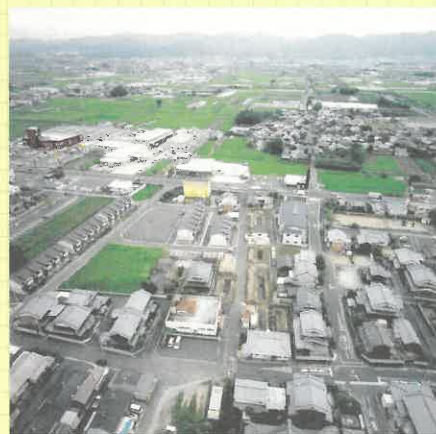
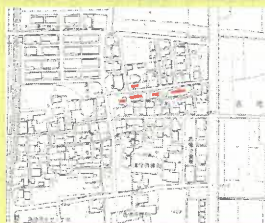
平成19年度には今回の調査地の20mほど東側で発掘調査をおこなっています(第6次調査)。その成果をあわせて考えると、この付近は弥生時代にはいくつもの川が流れ、集落周辺の低湿地のような場所であったと考えられます。さらに、過去の調査成果を踏まえると、前栽遺跡の北側には弥生時代中期の墓地が、西側には大きな村(平等坊・岩室遺跡)の中心があったことがわかっています。そのころこのあたりの土地はどのように利用されていたのか、興味は尽きません。

期間 平成20年7月24日～
平成20年8月5日

嘉幡遺跡 第2次

かばたいせき

2



航空写真(西から)



図面作成風景

嘉幡市営住宅の工事に伴い、遺跡の南西端を発掘調査しました。調査では、弥生～古墳時代にかけての川跡や、室町～戦国時代の柱穴や井戸、大溝などが見つかりました。

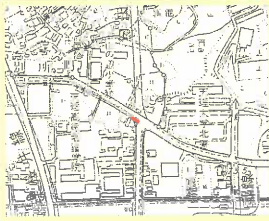
このうち室町～戦国時代の遺構は、堀で区切られた屋敷があったことを示しており、この付近一帯に集落が存在したことがわかります。これらの遺構からは土師器や瓦質土器のほか、唐津焼や伊万里焼などの陶磁器も出土しています。調査地から350mほど南西では中街道(下ツ道)と大和川が交差していることから、水陸交通の要衝として栄えた集落だったのでしょうか。この集落は、やがて現在の嘉幡集落の位置に移転しますが、その理由についてはよくわかりません。

期間 平成20年8月11日～
平成20年9月5日

袋塚古墳 第3次

ふくろづかこふん

3

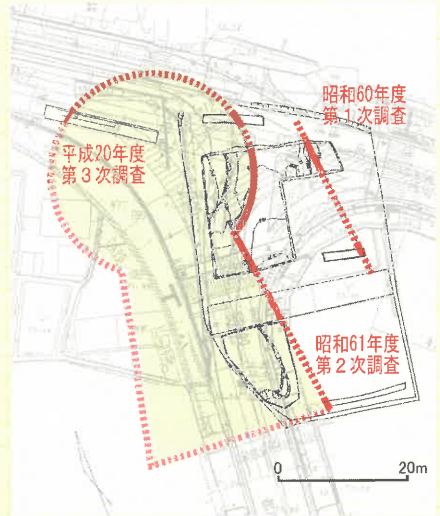


期間 平成20年12月16日～
平成20年12月18日

袋塚古墳はかつて別所町に存在したといわれますが、現在は削られてしまい地表には残っていません。今回は市道拡幅工事に伴って調査をおこないました。

今回の調査により判明した古墳の輪郭線を検討すると、袋塚古墳は従来の推定よりも長く、全長59mほどではないかと考えられるようになりました。この付近には古墳時代後期の古墳が集中して分布することから、未発見の古墳がまだ地中に眠っているかも知れません。

袋塚古墳の復元



山の辺第1工区 土地区画整理事業 に伴う調査

やまのべだいいちこうく
とちくかくせいりじぎょう

4



期間 平成21年2月16日～
平成21年3月13日



作業風景

調査地は現在でも中川と布留川北々流に囲まれていることから、この付近にはもともと深い谷筋が存在したことがわかります。田部町付近の区画整理事業に伴う発掘調査は、今後も継続的に実施する予定です。

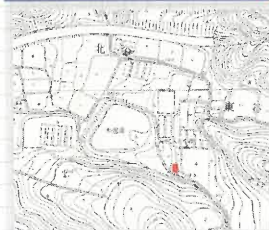
調査区全景(東から)



内山永久寺跡

うちやまえいきゅうじあと

5



空から見た内山永久寺跡

内山永久寺は永久2(1114)年に創建された寺院です。かつては「西の日光」と呼ばれるほどの大きな寺院でしたが、明治年間に徹底的に破壊され、今では境内の池などに面影が残るのみとなっています。今回は、ポケットパークの建設に伴い旧境内の中心部における初めての調査をおこないました。

調査地はかつて本堂などが建てられていたと考えられている平坦地の南側に当たります。今回の調査では、寺の境内を造成した際の盛土や石列が見つかり、中世段階の土器や瓦が出土しました。出土した軒丸瓦には巴文、軒平瓦には連珠文が施されたものがあり、永久寺の造営時に近い時期の瓦です。また、出土した瓦器椀には小型のものが多く含まれていました。

出土遺物のなかには近世(江戸時代)のものが少なく、「伽藍(寺の建物)は火災の被害を受けず、保延(1135-41)のまま残っている」という文献史料の記載を裏付けているのかも知れません。



軒丸瓦・軒平瓦



小型瓦器椀

期間 平成21年2月26日～
平成21年3月27日

出動！発掘現場レポート！！

平成21年度上半期の調査

天理市教育委員会は平成21(2009)年度上半期に発掘調査を5件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■下ツ道遺跡

二階堂小学校プール新設に伴い調査をおこないました。下ツ道の側溝の可能性のある大きな溝(幅5m以上)のほか、奈良時代ごろの瓦や塼(タイル)など、近くに大きな建物(役所か寺院)があったことを想像させる遺物が見つかりました。

■平等坊・岩室北遺跡第2次

市道拡幅工事に伴い調査をおこないました。小面積の調査でしたが、調査地周辺への遺構の広がりを見出す成果が得られました。

■成願寺遺跡第17次

携帯電話基地局の設置工事に伴い遺跡の北側で調査をおこないました。マバカ古墳に近い地点であることから、古墳に関わる遺構の確認が期待されましたが見つからず、中世の耕作跡が確認できました。

■平等坊・岩室遺跡第31次

店舗建設に伴い遺跡の中央付近で調査をおこないました。今回の調査地は弥生時代の集落の中心部にあたるところで、弥生時代中期の土坑・井戸・溝、弥生時代前期の土坑など多数の遺構が見つかり、多量の土器が出土しています。

■平等坊・岩室遺跡第32次

個人住宅建設に伴い、遺跡の北側で調査をおこないました。小面積の調査でしたが、弥生時代中期から後期、および古墳時代以降の溝や川跡などが見つかり、周辺の調査結果と合わせて興味深い成果が得られました。

平成21年度の調査成果は
来年冬の文化財展で
展示するよ！



※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.10は、平成22年夏発行予定です。お楽しみに！！



■平成21年度上半期の調査遺跡



■下ツ道遺跡
大溝の掘削風景



■平等坊・岩室遺跡第31次
出土した弥生時代中期の土器



■平等坊・岩室遺跡第31次
弥生時代前期 赤く彩色された壺破片

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町320
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆東洋印刷(株) 天理市兵庫町104-4